

858
96

宗因俳諧発句集



国立国会図書館 タイトル『宗因俳諧発句集』 請求記号 858-96

ガラス使用

858-96

序

あめはらのあまのこころに
あはれをこめて

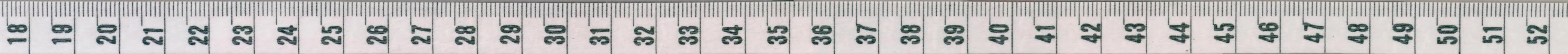
武蔵のあまのこころに
あはれをこめて

ほろり十通玉のあまのこころに
あはれをこめて

あまのこころに
あはれをこめて

あまのこころに
あはれをこめて

あまのこころに
あはれをこめて

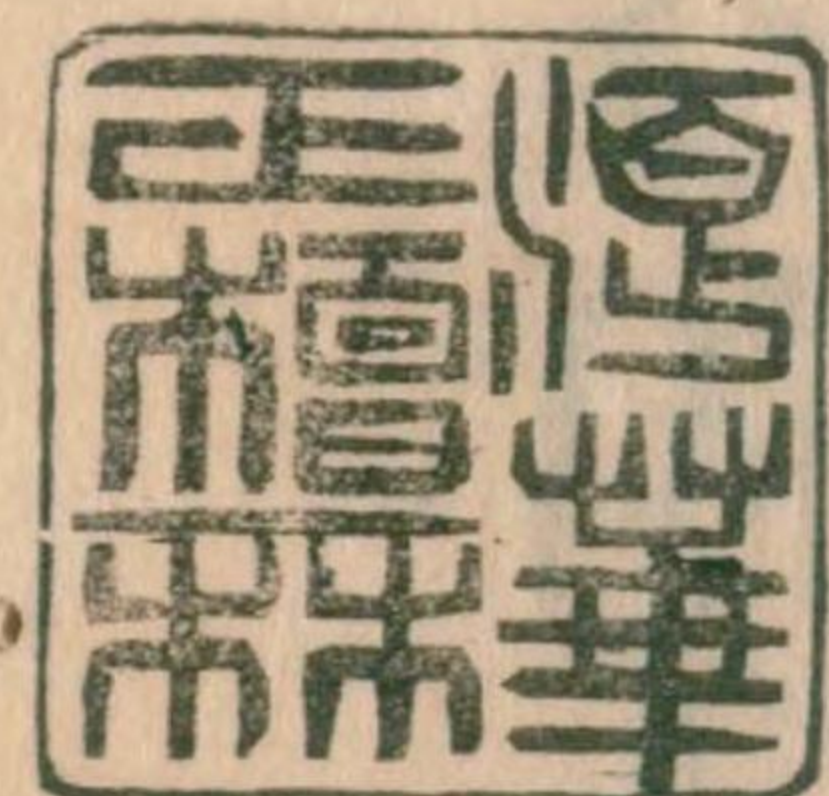


しるしを

寛政十二年

かのうのうらな

信長(正権林)の巻



林義信

宗因も能及の國の人姓西山律豊一依名次

サキ 首のつ木廣か首の危子の家名也寛永の年

かきりて廣を奥の豊城よりいりて信長を

あつりて城の伏見に隠るは幸の危矣

お寺の心法をいりて我を信長のそとに

うかへりてをいりてをいりてをいりて

の儀新十ヶキのうらな

又孫のうらな西の梅の巻



18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52

何

な

な

花

花

中

梅

花

人

花

花

三

花

花

花

花

花

花

春の風を人よとて

わのちと神のちりか
五月あやのちのやこれ梅の春
あつちのちりやあつちのちり
ねしとれちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり

あつちのちりあつちのちり

あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり

あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり
あつちのちりあつちのちり

新書の抄きよく
春や先中の方
おのの人のい
はるのい

春

俳諧發句

宗因

宗



自光とて

きや何 不ものり 子代の手
は〜〜〜

言〜あり〜つ〜の端〜やま〜始
ねん〜つや〜終〜り〜の〜終〜り

〜〜〜

ら〜と〜に〜ん〜林の〜あり梅の花

梅の花を〜

〜と〜自〜ふ〜何や〜ら〜の〜い〜か〜を

早〜〜〜

梅〜〜〜

ろれ〜〜〜

そ〜の〜〜

をの〜や〜

り〜

津路の〜

ふ〜

男〜

花下は白き花の一期よるる手紙

岩城の城はしほくくし居る

あまのくにさかすまは

夏はあはれし花のうらみは

わらわらふも鶴あなごち

あまのくにさかすまは

あまの国のせまはちあえうら

春は金時花は

あまのくにさかすまは

江戸よそ二句

花むらう一人世やと存

花下は白き花の一期よるる手紙

西の国はしほくくし居る

あまのくにさかすまは

あまのくにさかすまは

あまのくにさかすまは

あまのくにさかすまは

あまのくにさかすまは

依夜の中へ

是しりつゝさねの中へ

雪後院のまろし

おしり

あま入を宮へ

漢別奥昌寺宗鑑法師

一夜夜舞舞の節を

あま入を宮へ

あま入を宮へ

今流波流々

いふハをりの夕柳の

おろし

反

海よ

青羽の

あま入を宮へ



鐘

何

三

土佐の

人丸の

新

新

か

五

五

月

あ

や

あ

か

明

短

あ

あ

秋のつらき月夜を思ふ

人かみれ梅をよみしうらたて川

秋

さのしんしんしんかきものせうれ

秋や来るのしんしんしんしんしん

秋のしんしんしんしんしんしん

秋のしんしんしんしんしんしん

月のしんしんしんしんしんしん

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

秋のつらき月夜を思ふ

七世しちれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

あはれ秋の感しん

おれ構ふゝのゝも是も二の宮
給まゝに定もぬまゝもえしり

久安寺少て

而の林久あんともた名ははしり
ちかむ向唐茶も好の病さめは
跡あまし秋さけるもやあまら
あゝ病やそふ別あゝねふ

あゝ茶をよし

一ちや先もた也病よあゝ病

月もや病あゝ秋のまゝは
草も〜先月も〜もい
友人やも病を〜月も内
月も余も〜一も〜もわ

紀の〜も

大師の海あゝの月もやあゝ病

み〜も
三白

僕あゝも甲の病〜の秋のま
月も〜もた病もち〜も

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれ

あはれなるはなはな

あはれ

あはれ

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれ

あはれなるはなはな

跋
芭蕉此とらは何もいへば
申尔宗因サリいさかく古風を
破るにあつたもなほ角持を
うきつきのものもよ牛乳の
く昔乃とて神も舌ら
とるの雪とて人
西の山をよみ東の山をよみ
高の山をよみ

芭蕉の切の先
おもしろや念佛の
名珠の
あはれ
ま

858
96

蕉門
中興 六家集 六冊

蕉良 麥永 蕪村 六宗匠撰集
青羅 曉臺 蘭更 をあつて

半化坊發句集 二冊
同後篇 二冊

芭蕉新卷 二冊
翁句解

芭蕉 嵐雪 其角 点印論 一冊

格外弁 一冊
翁の句を摘すと引て其化をあらはす

蕉翁七部拾遺 二冊
同後篇

玉藻集 二冊
古今女乃句を

樗良句集 二冊

五筑房發句集 全二冊

樗良七部集 二冊

太來句 一冊
太來浪化贈答 乃書

三草紙 三冊
芭蕉翁遺言 士芳筆記

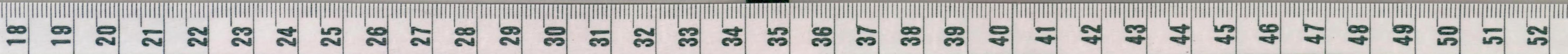
一夜四歌仙 一冊
樗良 蕪村 几董 嵐山

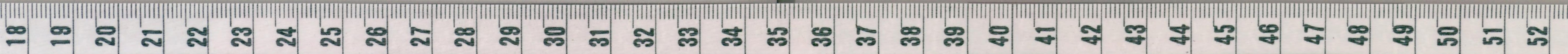
力 杖 一冊
芭蕉翁遺言

續一夜四歌仙 一冊
曉臺 青羅 月溪 几董

俳諧世説 五冊
より後并ニ門人行状とありむ 重更偏 全五冊

發句類彙集 五冊
各家と發句の今時流り 乃ありとる 長齋 編 全五冊





国立国会図書館 タイトル『宗因俳諧発句集』 請求記号 858-96

ガラス使用